

2016
11/13

ひとつになろう

2016年11月13日 カトリック東室蘭教会広報誌 毎月第2日曜発行

カトリック東室蘭教会
〒050-0073
室蘭市宮の森町4-9-7
Tel. 0143-44-3851
FAX 0143-44-3854

韓国巡礼旅行に参加して

第5回 韓国巡礼旅行に参加して 稲澤 壽美子

2016年10月17日～20日

総勢14名

巡礼旅行の日程は下記の通りです。

17日○仁川（インチョン）空港到着11:55

- セナムト殉教地教会訪問
- 明洞（ミョンドン）教会でミサ

18日●後谷（フゴク）教会でミサ・会食

- 懺悔と贖罪の教会訪問
- 統一展望台（トンイル・ジョンマンデ）
- 司教館訪問

19日●新内洞（シンネイドン）教会でミサ・会食

- ソウル神学校訪問
- 伝道師養成所訪問
- 景福宮（キョンボクン）見物

20日●切頭山（チョルトサン）教会聖地巡礼とミサ

- ソウル市内昼食後自由行動
- 新千歳空港到着21:20

次に上記の特に心に印象深く残ったことを述べさせていただきます。

1) 宋神父様との再会

17日仁川空港に着くと宋神父様が手書きのプラカードを高く掲げて迎えてくださいました。とても嬉しく一団から歓声が上がりました。遠い所をお忙しい中駆けつけてくださったのです。宋神父様共々喜び合い、その暖かさを胸に私達は最初の目的地へスタートしました。

2) セナムト殉教地教会訪問

教会の造りは日本の寺院を想わせます。むしろ屋根反りの深さは中国の寺院に酷似しています。1800

年代の夥しい数の殉教者の出た時代の建築様式を彼らを偲び、後世再現させたのでしょう。

ソウル神学校卒業第1号のアンドレ・キム神父様は、24歳で叙階、翌年の25歳でこの地で殉教なさいました。この地に立ち、なんと痛ましく無念、そして神様の愛に応じて亡くなられた思いが幾重にも迫って胸が熱くなりました。同時期、中国からの司教やパリ・ミッションの司祭も同様命を奪われました。天主教（カトリック）の一般信者も集団で殉教されました。近くを流れる韓国最大級のハンガン河が血色に染まったと伝えられていることから殉教の惨たらしさが想像されます。

教会内外にさりげなく祈り台が設置されていました。「いつくしみの特別聖年」の今年、巡礼教会と定められ静かに祈る人々の姿がありました。又、教会内至聖所の前側に美しい青磁や文様が描かれた大きな壺に殉教者の遺骨が納められ、芸術品のように並べられてありました。この国の故人を偲ぶ尊い信仰の形なのでしょう。殉教者を大切に大切に後世に伝える思いが伝わってきました。

仲良く記念写真



日韓3人の神父様によるミサ

3) 後谷（フゴク）教会訪問

宋神父様が主任司祭として奉仕なさっておられるとても大きな立派なレンガ造りの教会。地理的には、ソウルよりずっと北で、近年ソウル教区から分離して出来た教区とのことでした。信者数は約5000名。（一日何度もミサが捧げられるそうです）私達が訪問した日は平日にもかかわらず私達のために多くの方達がミサに参加して下さいました。何より嬉しかったのは至聖所の正面に巨大スクリーンを掛け、日本語で「ミサ次第」が逐次写し出してくださったことです。私達は日韓両国のミサが同時に融合され心一つにして参加させて頂きました。この心遣いに感謝しました。

聖堂では皆さん全員で歓迎して下さることが直に伝わり、なんと心の豊かな人達と感心しました。代表信者さんと一緒に会食は女性部の方が作って下さったメインディッシュは、ご飯のたっぷり入った鶏鍋の「サムゲタン」でした。おいしく頂き、身も心も温かくなっておわかれしました。

4) 懺悔と贖罪の教会訪問

北朝鮮に最も近い安全のギリギリのところにこの教会は建てられていました。（北朝鮮との距離は4キロメートルとのこと）聖堂内部のステンドグラスや装飾は南北両国の作家が共同で作業したことに驚かされました。正に国境を越えて建てられた教会です。地下ホールに設われていたミサ台は南北統一の地図型になっていました。南北に分断されて60年間、統一を希求しその思いがミサ台の型となったのでしょうか。国民の心の痛みが強く感じられました。

5) 新内洞（シンネイドン）教会訪問

私達室蘭ブロック教会と姉妹提携がなされている教会。ホールに到着すると主任司祭様と信者の方々

がニコニコとで迎えて下さっていました。そのホールに芸術作品が展示され、歓迎ムード満載で再会のよろこびが更に大きくなりました。信者の方々は触れ合う場では全身で歓迎のよろこびを表して下さいました。全く宋神父様の教会と同じ。触れ合えば心が通じ会える。そう簡単に行かないのが常ではないでしょうか、日韓3人の神父様の肅々と捧げられたミサは素晴らしいものでした。

6) 伝道師養成所

ソウル神学校と同じ敷地内に建つこじんまりとした建物。中では授業中のクラスもありました。この養成所の学生は全世界からきているとのこと。京都から学びにいらしておられたシスター様にお会いできました。

修道者然り、社会人、大学生と身分は様々。昼間部、夜間部、通信部と学びやすいシステムになっていて、現在通信部には2000名の学生が受講しているそうです。各自授業料を支払っての受講となるので、その学びの姿勢は真剣そのものになるのも当然と思われました。卒業生は国内はもとより全世界の布教に携わる。韓国の信者数の多い一因がここにもあったことが識られました。

韓国巡礼旅行は今回は2回目でしたが、新たな思い、感じ、学びを得て前回の点が線で結ばれるところが多々ありました。同行して下さった江別教会の韓（ハン）神父様の熱心な先導、通訳、細やかな気遣いに依って旅行を充実させて頂きました。小林、韓両神父様を初め同行の皆様にお世話になりながらの感謝の旅行でした。



景福宮（キョンボクン）見物